

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 101

令和2年(2020年)

日本庭園学会全国大会中止について

発行 日本庭園学会(会長 佐々木邦博)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園文化研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

6月の全国大会の中止について

会員の皆様

新型コロナウイルスの流行がおさまらない中、日常生活の様々な面にわたり注意しながらお過ごしのことと存じます。令和2年1月に感染者が出始めて以来、全国に広がりました。同年4月7日には政府により新型コロナウイルス感染緊急事態宣言が発表され、さらに同月16日には対象地域が全都道府県に拡大されました。感染の拡大を防ぐため、いわゆる3密(密閉、密集、密接)の状態を避けるとともに、不要不急の外出も控えることが求められています。

こうした中、今年度の全国大会を令和2年6月に福井県で開催することが予定されていましたが、事前に必ず開く理事会も開催できない状態です。そこで、理事の皆様と電子メールで審議しました結果、6月の全国大会を中止することになりました。やむを得ない判断とはいえ、会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

学会の定款には、総会を毎年1回開催することが挙げられています。そこで、秋に開催しています関西大会ですが、大会のプログラムに総会を加え、名称を令和2年度全国大会とする見通しです。

ただし、新型コロナウイルスの流行がいつ収束するのか、今の段階では全く予想が付きません。収束していない場合には、秋の大会も開催が危ぶまれます。学会ニュースの次号で開催できるかどうか、お知らせいたしますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

なお、福井県で開催予定としていた大会については、1年遅れて、令和3年度全国大会として開催いたします。来年6月になりますが、皆様のご参加をお願いいたします。

最後に、本年度の全国大会の中止に関連しまして、多くの方にご尽力いただきました。ここに、あらためてお礼を申し上げます。

令和2年4月23日

日本庭園学会
会長 佐々木邦博



延期後の開催内容について

延期後の開催内容は、以下を予定しております。

○変更後の日程：

令和3年6月26日（土）～27日（日）

※会場や参加費、シンポジウムの内容に変更はございません。大会の内容等を再掲いたします。

■内容

令和3年6月26日（土）

午前・午後 研究発表会、総会、
学会賞受賞者講演会

夕方 情報交換会 18時～20時頃

令和3年6月27日（日）

午前 現地検討会 午後 公開シンポジウム
「発掘庭園の保存と活用」（仮題）

■会場

研究発表会、総会、学会賞受賞者講演会
福井市郷土歴史博物館
（JR福井駅下車徒歩12分）

情報交換会 未定
（福井駅徒歩圏の会場を予定）

現地検討会 特別名勝一乗谷朝倉氏庭園・福井県
立一乗 谷朝倉氏遺跡資料館、名勝
養浩館庭園（、丹巖洞）

公開シンポジウム

福井県立図書館
（無料バスあり：JR福井駅前発
15分間乗車）

■参加費

学会員 2,000円

非会員 4,000円

※学生は、会員の場合は500円、非会員の場合は1,000円とします。

※上記金額に資料代、現地検討会の入場料及びバス代を含みます。

※大会参加費は、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

※公開シンポジウムのみ参加は無料ですが、資料をご希望の場合には1,000円いただきます。

情報交換会 6,000円程度を予定

■宿泊先候補のご案内

主要なホテルは以下の通りです。ご予約はどうぞお早めに、会員各位にてお願いいたします

- ・ホテルルートイン福井駅前
- ・東横INN福井駅前
- ・福井マンテンホテル駅前
- ・福井フェニックスホテル
- ・ホテルフジタ福井
- ・天然温泉羽二重の湯ドリーミン福井などなど

令和3年全国大会の見学地—特別名勝—乗谷朝倉氏庭園の紹介



朝倉館跡庭園

特別名勝一乗谷朝倉氏庭園は、今から約450年前、室町時代末期に越前国（現在の福井県）を統治した戦国武将、朝倉氏の城下町跡にて発掘された庭園遺構群です。各庭園の構造や作庭時期がより明確になったこと、室町時代末期の庭園として特に後世の改変を受けていない点で学術上の価値が高いこと、適正な管理と周囲の史跡整備によって庭園の歴史的風致および景観上の価値が付加されたことが評価され、庭園文化史上きわめて価値が高いとして、平成3年、特別名勝に指定されました。

特別名勝一乗谷朝倉氏庭園は、当主館の最奥にある朝倉館跡庭園と、高台にある湯殿跡庭園、当主の妻の館と伝わる諏訪館跡の庭園、当主の子女が入寺した尼寺であった南陽寺跡の庭園と、4つの庭園で構成されます。中でも朝倉館跡庭園は、建築遺構と一体的に比較的良好な状態で遺構が検出されており、足利將軍の御成時の文献史料と考古学的知見を重ねることにより、当時の生活を具体的に検証できる事例と言えます。

また、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡では、当主である朝倉氏一族の館・寺院以外にも、家臣の武家屋敷や医師の屋敷等にて庭園遺構が見つかっています。これは、当主のみならず家臣も文武両道を求められていたことから、和歌や茶の湯等の文芸の舞台となる庭園空間を必要としたためと推定されています。

そのほか、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡および特別



武家屋敷の庭園

手水鉢と推定される
石製鉢

名勝一乗谷朝倉氏庭園の出土品には、庭園空間と一体的に楽しまれていた茶の湯に用いたと推定されている手水鉢や、座敷空間の設けを示すと推定されている中国・朝鮮製の陶磁器、盆石に使用したと推定されている石製盤などがあり、室町時代末期の庭園文化を断片的ではありますが詳細に伝えてくれます。

来年6月の現地見学では、庭園のみならず出土品もご覧いただき、戦国期の庭園文化への想像を膨らませていただければと考えています。来年の福井県へのお越しをお待ち申し上げます。

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
文化財調査員（造園・庭園）

藤田 若菜

会津若松市「攬勝亭」庭園の保存問題

日本庭園学会事務局に寄せられた会津若松市民からの「攬勝亭」について。(令和2年4月14日受信「会津若松市内藩政時代庭園の宅地開発について」) 新聞記事「庭園『攬勝亭』宅地へ」(福島民友新聞 令和2年2月28日)が添付され、学会へのこの庭園保存への助力依頼が記されていた。



攬勝亭(らんしょうてい)は会津若松市柳原二丁目2に所在し、江戸時代の天文年間(1532～頃)の造営とされる。長尾氏が庭園を築き、その後改修を加え江戸時代～大正時

代まで所有した。攬勝亭の名は、会津藩初代藩主で会津松平家初代の保科正之によると言う。面積は約830坪(約2744㎡)。園内から磐梯山を望むことができる庭園で、5カ所ほどの築山と石組護岸による上池、中池、下池のやや大きな3つの池が細流により結ばれる構成をもつ。園内には石造物(石灯籠、石碑等)があちこちに配されている。現況では、放置状態が長引いてやや荒れた様相を呈している。

『若松市史』(昭和16年)に「亭は北会津郡神指村字柳原元肝煎長尾代吉の庭園なり、この亭最も

眺望に富めるを以て、四季折々文人墨客避塵の楽園となし、藩主遊獵の途次 休息せられと云うを以て世に知られる。」と記述される。また、「会津三庭園の一つ」「地方四苑の一つ」とも称される。会津三庭園の他は御薬園(国指定名勝 会津松平氏庭園)、可月亭庭園で、五代目藩主松平容頌(まつだいらかたのぶ)の招きにより御薬園を築庭した目黒浄定が、同時期に攬勝亭庭園と可月亭庭園にも関わったことによるという。

新聞等の報道記事から攬勝亭は現在、仙台市の宅地開発業者(積水ハウス不動産東北)の所有となり、令和元年12月には市より開発許可が下りている。こうした開発の動きを受け、令和2年4月11日「攬勝亭を守る会」(高瀬淳会長)が発足し、同会が主導して関連団体と共に集めた署名約460名を添えて要望書を市長に直接提出している(令和2年4月25日)。この問題が今後どう推移するか本学会においても注視していきたい。

この攬勝亭に関わる情報等をおもひの会員におかれましては、事務局へご一報ください。

なお、こうした地方色ある古庭園の保存と開発については、会員の所在する地域にても同様な課題があるのではないかと拝察いたします。同じような課題については、是非事務局への情報提供により、学会ニュース等を通じて、広く情報共有をお願いする次第です。

(渉外委員会)

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：森本純代・小椋菜美(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342